



奉祝唱歌

東宮御成式
奉祝唱歌
今日全國各學
校に於て唱ふ

東宮御成式
奉祝唱歌
今日全國各學
校に於て唱ふ

一千戸を買潰す

高田の坪八圓安いのが七圓
南大門驛増改築の敷地
買収事務所
買収事務所の買収
買収事務所
買収事務所

白石少佐の

決意の日
白石少佐
白石少佐
白石少佐

記者の活動

記者の活動
記者の活動
記者の活動
記者の活動

米國中部の大吹雪

米國中部の大吹雪
米國中部の大吹雪
米國中部の大吹雪
米國中部の大吹雪

連判帳を提出して
大邸目制團體活躍
連判帳を提出して
大邸目制團體活躍

連判帳を提出して
大邸目制團體活躍
連判帳を提出して
大邸目制團體活躍

組合教會の活動
組合教會の活動
組合教會の活動
組合教會の活動

何も弟の爲
何も弟の爲
何も弟の爲
何も弟の爲

終始俯仰
終始俯仰
終始俯仰
終始俯仰

教育家に
教育家に
教育家に
教育家に

遊歩に相應
遊歩に相應
遊歩に相應
遊歩に相應

花の目曜
花の目曜
花の目曜
花の目曜

朝來の花
朝來の花
朝來の花
朝來の花

岸本靜子さん
岸本靜子さん
岸本靜子さん
岸本靜子さん

教育家に
教育家に
教育家に
教育家に



野球リーグ戦
野球リーグ戦
野球リーグ戦
野球リーグ戦

安東の大運動會
安東の大運動會
安東の大運動會
安東の大運動會

春の何處
春の何處
春の何處
春の何處

楊柳芽む
楊柳芽む
楊柳芽む
楊柳芽む

將軍島
將軍島
將軍島
將軍島

演劇界内
演劇界内
演劇界内
演劇界内

浪花館
浪花館
浪花館
浪花館

文樂座
文樂座
文樂座
文樂座

素の酢
素の酢
素の酢
素の酢

素の酢
素の酢
素の酢
素の酢

鼻の高くなる
鼻の高くなる
鼻の高くなる
鼻の高くなる

口よせの術
口よせの術
口よせの術
口よせの術

竹生英堂
竹生英堂
竹生英堂
竹生英堂

素の酢
素の酢
素の酢
素の酢

素の酢
素の酢
素の酢
素の酢

東京 田邊南龍請演
長曾根虎徹(十六)
ん、兎に角止めて様子を観さう

此太郎は犬吠の人が薪合つて居るのを見てハタと叫ぶに「これは面白い」虎は日本には居らなから見たことではないが、虎に似た犬を、虎よりも威勢しい犬猫が、鬣を交錯し肩甲を割つた月刀の切れ味は、鋭切の虎でも鬣鬣を突鋭するは滑りあるまい、美事の刀だと思ふが申した、我刀虎をハズカかり、コハ面白し、以後充分の修業して世に立つ時は、虎虎と名乗り、虎虎の名、大に我意を得たりと、禰子の心に思ひ定めた。是れは虎次郎進時を出生しい、別れた人々、齋られまで送り、形を詳しく聞いて、虎次郎は



くのが面賣で、三した金にはなり
ませんから、もう一寸金は足り
金を寄るのせう。此時は先生に
力を乞ふて頼りたいと思つて
居ます。虎夫は私の刀が好ま
ならぬ。腰刀を二丁と持つて居
所の横の上縁を助けて、手へ
入れ、埃だけになつて居る大
きを出して、虎一人には太刀二丁
を拂つて、虎二人は太刀二丁
要らないが、私腹無ければ力方

京橋太平通一丁目
皮膚科 扇出皮膚科
外科 門 電話二五八〇番

進めさう。喜助は驚いた、大刀が
二尺半だ。腰刀が一尺八寸。其
頃お大やん、役人使來客に頼ま
れ、氣に向ふべし。容易に繼
ない望の虎雄は、刀を無代で返
るさ云ふのだが、行くのも無理は
ない。

○金浦全く平靜
今日の歸後は長谷川浦浦主と市原氏
十數千百の諸族集り、騒ぎが起し

なるが、密旨は陸軍の報告を以てして、
確力解散に努め其の甚だしき處は、
郡村に出張して群衆に臨み懇々説諭
を加へ或は面長等に於て駐在する
と協力説示の結果何れも無事終結
し些の損傷を見ざりき、是が爲め富
小高島方面より本市に警備する者

多く隣郡の慘状を聞知する余油の
 有患は官憲の措置總かなりし爲め
 本郡は幸に無事なるを得たりと
 衷に感謝し居れり

四月十五日
 (舊三月初五日)

火曜日△ひのこより△酉酉
 創辰巳△東南△大安△
 晴△と△満月

▼四縁▲「やんくしからざる日也」
 ▼五黄▲「兎角横槍の來こうな日也」
 ▼六白▲「何さなく氣の浮かざる日也」
 ▼七赤▲「實意の先方へ通らぬ日也」

数に明の下に居て
 八白 ▲少事の當てにならぬ日中
 九紫 ▲花も實もある日出度き日
 にして萬事進んで利益ある日なり
 一白 ▲優美なる暇々しき日なり
 二黑 ▲勞して餘り効なき日なり
 三碧 ▲結構な晴れくする日

味の素



●「旨い」といふ味

東京帝國大學理學部大學教授
理學博士池田眞澄先生の新著『味の科學』を讀んで、
味と申せば、甘い、酸い、鹹い、苦いの四つに定めて居りましたが、東京帝國大學教授池田眞澄博士は猶此の他に「旨い」「美味しい」いふ味がなければならぬと考へてゐて、苦心研究丁度四年の星霜を経て遂に學名「グルタミン（肉體鹽）」といふのが即ち美味いうまいことと原素であることを發見され、これを食鹽と砂糖のやうに一つの味體として採り集むる事をこの明國にしては名文明國の舉げてでも心願しました。この有益なる發現に對しては各文明國の學界でも大いに讃許を浴びさせんとした。殊に我が日本政府の特許局をはじめ英國、美國及び他國の各政府も特權を與へ、專賣特許證を附與して學が多数の京勢に關し、そして名譽を永遠に我彰しました。そこで



A black and white portrait of a man with glasses, wearing a suit and tie, looking slightly to the right.

田博士に御願して、此の新發明品に味の素」と命名し、廣く世に出した。また處「おしくて滋養に富み、たの世間から非常に歡迎された。そんな譯で最初の計畫では、世間に合ひませんから、更に博士と相談して工場を擴張し、機械を設へ、製造法を改良することに致したので御座います。

●調味料どし

味の素は、小麦又は大豆の蛋白質を原料とし巧妙な機械力と微妙なる化學的力とを以て精製したもので、炭酸小蘇灰と大豆を粉化した後炭水化合物と蛋白質（味の素原料）とに分離し之れを分解したる上、過熱し又真空釜にて蒸發し更に冷却器にて放冷し尙不純物を除去する爲め除水加熱再製澱白乾澱粉と末等類々の作業と各種の機械とを總て兼ね味の素となるので、其價に余り安い、日子を費するのであります。斯様にして精製された味の素は、水にも油にも易く溶け、其味は、其の眞實で、眞實に味の素は有味の飲料物の「味の素」の原料を集めたものと全く同じですから、和洋料理は勿論、飲食物を何へても少強を添えて



著く風味と滋養分とを増すの
ならず食物の趣味厨殿をも防ぐ
力があります。

◎お花見摘草
郊外散歩遠足

砂干狩のどけ當や毎日の物事
を手軽に美味しく拾へますは味
の素をお使ひになるに限りです。
味の素の箱の中には小匙が添
てありますからそれで鰹節を使
時に使へば宜敷いのです。つま
り汁や煮物、ひたし物、寄せ物
ならは拾へる時選ぜればよろしく

都免

味の素少きお茶、湯でだんに願ふ花見茶后
 日く料理とする味の素精に美觀の味合
 三三三は水分が細い味の素濃く煎茶足
 島田とわして丸く煮て結の密な味を所
 京八幡漬茶とおし花の紅じりや東の露
 下り下りが二三の時茶房に夢し味の素
 不旨と云ふ香糖をばかりに入れた味の素
 華明石世帯品には無ちや須臾なく味の素
 滋味に越する來た亦引解けし味の素
 味の素なりや料も好む優る花見茶
 男ももの目についたに盛れたまた味の素
 煎り過ぎの粉手車便利出庫に便す味の素
 味の素とて平く言へば舌で試さうと噂ひ

味の素
調味料

[illegible]

痔疾專門

京城久枝肛門病院

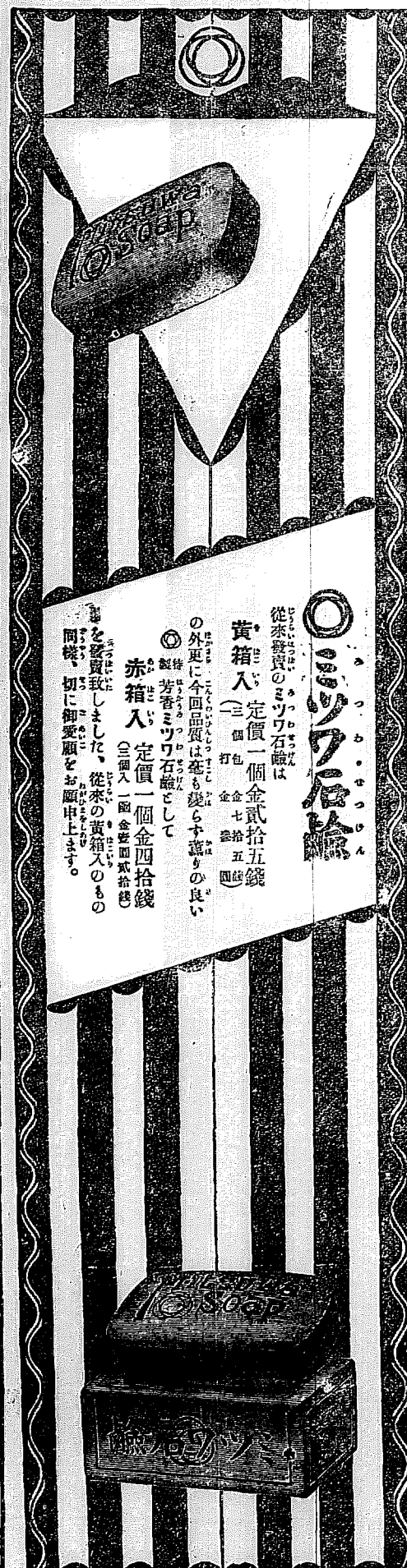
淋病新藥 ツヨール

殺菌力 つ有る **胃腸を害す** つ絶對 **理想的** の一定せる **權威** ある **優秀新藥**

內科
小兒科
院長
副院長
永登浦分長

京城旭町一丁目（電話六九二番）
小林醫院

醫學士
東北醫學士
醫師久保川廣次



○三ツ石除

從來發賣のミヅワ石鹸は

黄箱入 定價一個金貳拾五錢
三個 打包 金七拾五錢 四錢

の外更に今回品質は毫も變らず舊の良

製 芳香ミヅワ石鹼として

赤箱入 定價一個金四拾錢
三個入 一匁金壹圓貳拾錢

を發賣致しました、從來の黄箱入のものと同様、切に御愛顧をお願い申上ります。

京城日報

(一)號四十四百千四第 日四十月四年八正大 (日八九月三三三三) 日四十月四年八正大 (日八九月三三三三)

獨逸形勢重大

過激派躍頭

騷擾の原因

匡救私案

關元 植

獨逸形勢重大

過激派躍頭

騷擾の原因

匡救私案

關元 植

獨逸形勢重大

過激派躍頭

騷擾の原因

匡救私案

關元 植

獨逸形勢重大

過激派躍頭

騷擾の原因

匡救私案

關元 植

獨逸形勢重大

過激派躍頭

騷擾の原因

匡救私案

關元 植

獨逸形勢重大

過激派躍頭

騷擾の原因

匡救私案

世界的新舊人

渡邊彌幸君

世界的新舊人

渡邊彌幸君

世界的新舊人

渡邊彌幸君

世界的新舊人

渡邊彌幸君

世界的新舊人

渡邊彌幸君

世界的新舊人

郵便機械進步

矢野龍溪

郵便機械進步

矢野龍溪

郵便機械進步

矢野龍溪

郵便機械進步

矢野龍溪

郵便機械進步

矢野龍溪

郵便機械進步

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

安東縣より

講義録

講義録

講義録

講義録

講義録

講義録

講義録

講義録

講義録

講義録

講義録

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

大日本國民中學會

